

ニセコ町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

ニセコ町は、山岳に囲まれた波状傾斜の多い丘陵盆地に位置しており、バス交通は高齢者や学生など自動車を運転できない町民はもとより来町者などにとっても必要不可欠な移動手段である。利用者の利便性向上や効率的な運行を図るため、スクールバス、福祉バス、一部の路線バスを統合した町内循環バス(ふれあいシャトル)を運行していたが、人口減少・少子高齢化が進み、利用者が減少する一方で交通弱者が増加し、交通空白地帯も出てきている。こうした中、持続可能な公共交通の確保維持に向けてふれあいシャトルを廃止、新たに町内全域を対象にデマンドバスを導入(にこっとBUS)し、利用者へのサービス水準の維持を実施した。

ニセコ町生活交通ネットワーク計画の目標・効果

ニセコ町の実態に即した長期的で持続可能な地域公共交通の確保維持にむけて、利用者へのサービス水準の維持・向上を図り、乗車密度等を高めながら事業性を向上し、化石燃料使用の抑制を図るため、バス交通を中心とした需要と供給をマッチングさせる「マネジメントシステム」(バス交通のデマンド型運行)を導入する。

- ①通勤・買物・通院などの日常生活に必要な移動における自家用車利用を地域公共交通利用へ転換させ、乗車人数を増加させる。現状 16,497人 → 目標 25,200人
- ②町民の健康維持や地域活性化に資する施設利用やイベント参加のための移動における地域公共交通利用を促進させ、月平均運賃収入を増加させる。現状 133,058円 → 目標 416,666円
- ③地域公共交通の利用により経常収支比率を改善させる。現状11.26% → 18.87%

平成25年度事業概要

町内全域を運行区域とするデマンド型運行

- ・運賃 1乗降200円
- ・提供方式 ドア・ツー・ドアサービス
- ・運行日時 午前8時から午後7時まで毎日運行(平日のみ西富地域からの路線を午前7時台に1便運行)
- ・運行区域 町内全域
- ・車両及び台数 ワンボックスタイプ(10人乗り) 2台

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(ニセコ駅、昆布駅)
- ・ニセコバス(株)(町内5路線)
- ・道南バス(株)(町内1路線)
- ・スクールバス(5路線)

ニセコ町地域公共交通活性化協議会開催状況

平成24年5月14日 第1回協議会を開催
(主な協議)H24年度事業計画案及び、予算案、地域内フィーダー系統確保維持計画案に基づく運行計画案など

平成24年8月21日 第2回協議会を開催
(主な協議)地域内フィーダー系統確保維持計画、ニセコ町デマンドバス運行事業者決定など

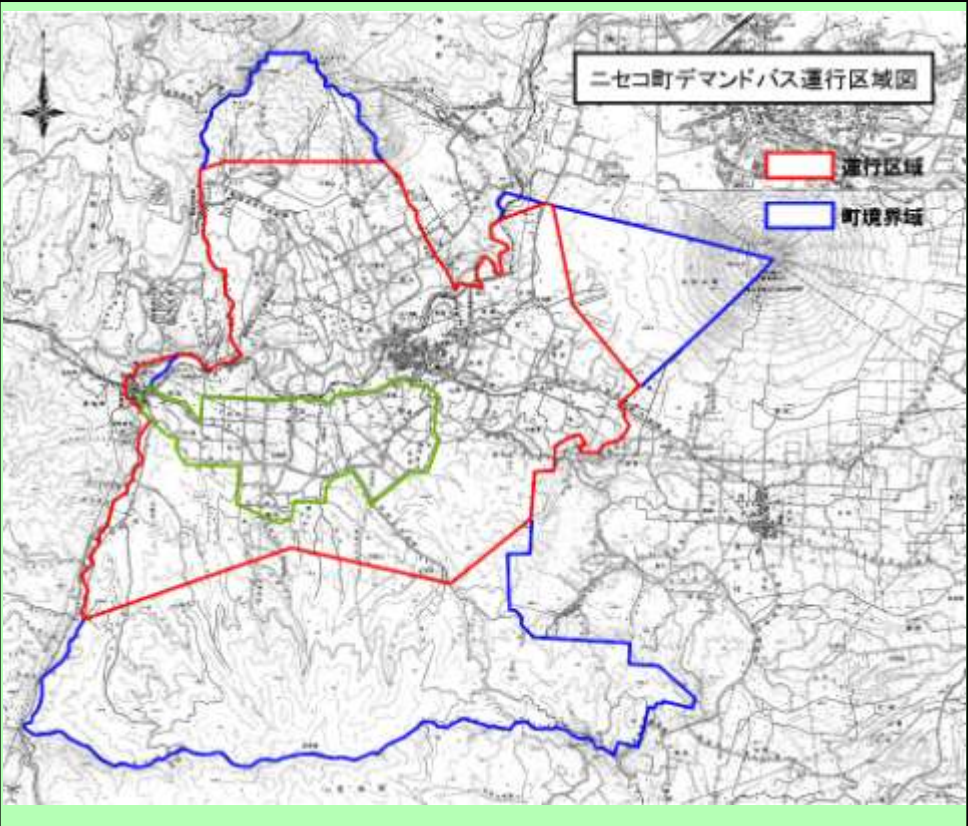
平成25年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

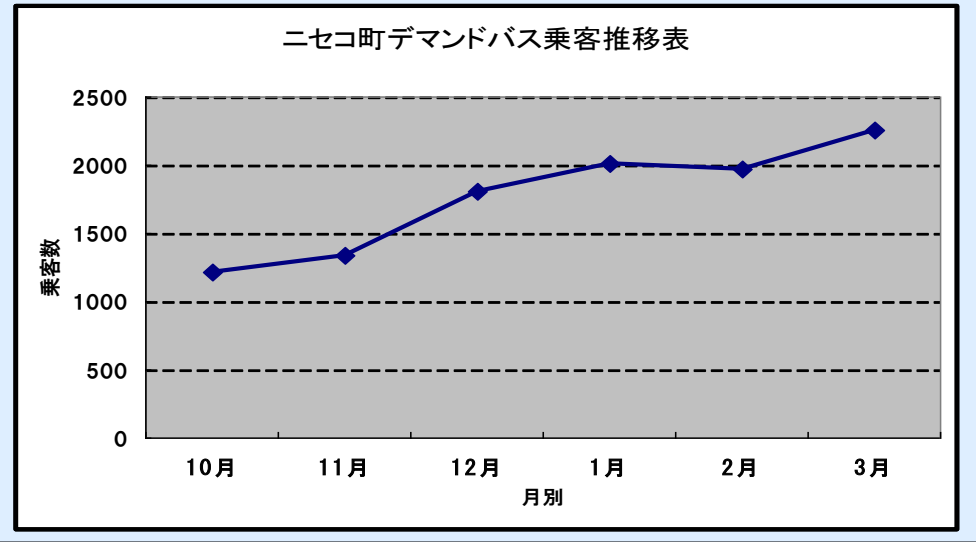
■ H14から利用者の利便性向上や効率的な運行を図るため、スクールバス、福祉バス、一部の路線バスを統合した町内循環バス(ふれあいシャトル)を運行が、人口減少・少子高齢化が進み、利用者が減少する一方で交通弱者が増加し、交通空白地帯も出てきていることから、新たに町内全域を対象にデマンドバス(にこっとBUS)を導入

■ 交通空白地域の解消に加え、高齢者の出歩きや、商店街振興、観光客の利用も想定した運行体制を構築

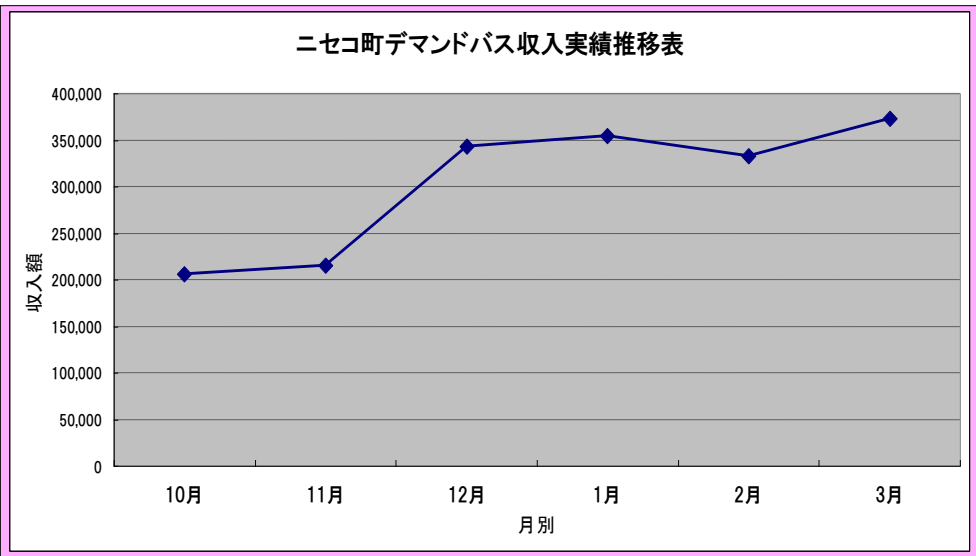
2) 運行ルート



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

運行開始当初の乗車数が伸びなかったため、いずれも目標に満たなかった。

- ・利用者数の向上目標である2,100人／月に対して、1,776人／月
- ・月平均運賃収入の416,666円／月に対して、311,565円／月
- ・経常収支比率の目標18.87%に対して、14.4%

7) 事業の今後の改善点

直近の乗車人数が目標数値に近づきつつあるため、乗車効率や乗合率を高め、適正な運行に務める。また、今後は、利用実態の調査の必要性についても検討を行う。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。現時点では目標値に達していないが、毎月の乗車人数、運賃収入ともに運行開始より増加していることから、利用実態の調査を踏まえた適正な運行等により来年度の目標達成を期待する。また、高齢者の出歩きや、商店街振興、観光客の利用も想定した運行体制の構築に向けた利用実態調査の必要性について検討し、持続可能な事業となることを期待する。